

平成24年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						前回	前回					
						最終	最終					
海岸事業 (海岸侵食対策事業)	502	安乗地区海岸	志摩市	<p>【全体事業概要】 人工リーフ3基 養浜 56,000m³ 突堤工1基 階段工2基 斜路工2基 離岸堤2基 堤防(高上げ、補強) 377m</p>	H17		1,599	<p>海岸整備前は、来襲波浪の侵食作用により前浜の消失や、高波浪時に越波による被害が度々生じていましたが、平成19年度の事業完了後、養浜した砂はほぼ整備後の状態を保っており、多数の台風が上陸ないし接近したものの、当海岸では海岸保全施設及び背後の施設等に被害は発生せず、防護機能を発揮することができました。</p>	<p>浦ノ浜は的矢湾に面しており、伊勢志摩国立公園内にあることから、眺望を楽しみながら海岸を訪れる観光客や地元住民の方々が散策されるため、景観に配慮し、前浜を復元する養浜と人工リーフを採用しました。</p> <p>的矢湾における化学的酸素要求量(COD)の経年変化については、全体的に事業中から事業完了後も変化が小さいことから、当該事業実施による環境への影響は少ないものと考えられます。</p>	<p>平成23年3月11日に、東日本大震災が発生し、東北地方に甚大な被害をもたらしました。また、平成24年8月には内閣府が南海トラフ巨大地震に伴う被害想定を最大津波高さの公表を行いました。</p> <p>これらに伴い、地域の住民の防災意識が高まり、防災訓練が実施される等、市町との連携による総合防犯的な取り組みが行われるようになってきています。</p>	<p>事業全体に対する満足度は、「満足」、「どちらかといえば満足」で約7割を占め、「どちらかといえば不満」、「不満」の約3割を上回る結果となりました。</p>	<p>住民の方々は、災害に対する不安、施設の維持管理、住民意見の計画反映を懸念されています。</p> <p>これらへの今後の海岸事業における対応として、災害に対する不安については、地震・津波について正しい知識を持ってもらうことやハード対策の限界、逃げることの重要性を志摩市と連携し、今後海岸事業を実施する際の事業説明会等の場で説明を続けていきます。</p> <p>施設の維持管理については、三重県では、毎年施設点検業務を発注している結果に基づき適正な維持補修を行っていきます。</p> <p>住民意見の計画反映については、今後は海岸事業の趣旨を十分説明するとともに、住民全体の意見を取り入れながら事業を行っていきます。</p>
				<p>【事業目的】 侵食が甚だしい海岸において人工リーフ、養浜等により波浪を減衰させ高潮や侵食による被害を防止する。</p>	H8		1,915					

平成24年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						総事業費	総事業費					
						前回	前回					
水産基盤整備事業(広域漁港整備事業)	503	阿曾浦地区	南伊勢町	<p>【全体事業概要】 消波堤設置 延長L=350m (造成面積A=10ha)</p> <p>【事業目的】 本事業は、健全な母貝養成を通じて施作員の生残率向上や真珠の品質向上を図るため、南伊勢町鷺湾口阿曾浦地先に消波堤を設置し、新たな真珠母貝養殖漁場の造成を目的としました。</p>	H7			<p>(1)直接的効果 ・費用対効果分析 B(総便益額)= 8,064百万円 C(総費用額)= 7,731百万円 B / C = 1.04 直接的効果項目: 真珠母貝自給生産効果、イセエビ等水産生物の増産効果、海藻類の生育による水質浄化効果、遊漁利用等 ・定量化(金額換算)できない効果 消波堤背後における海岸等の防護効果等 ・施設の管理状況 三重県養殖場施設管理規程に基づき、適切な施設管理を実施。 (2)間接的効果 ・波及効果 刺し網漁業等の操業の安全性や漁船航行の安全性が向上。 ・間接的に生じたと考えられる効果 周辺海域は、マダイ・カサゴ等の種苗放流場所として活用のほか、藻場形成により、海藻種苗の供給場所等として期待。</p>	<p>(1)環境面への配慮 地区内にブロック製作ヤードを造成し、作業船の長距離移動による排気ガス量を抑制。 (2)事業実施中に配慮した事項 天然の岩礁等の位置を考慮し、設置するブロック数の軽減に努めた。 (3)環境の変化 ブロックには、海藻類の繁茂や魚類等の餌料物の付着が確認され、水質浄化や小型魚等の保護・育成場として機能している。 (4)現在の状況 海藻類の繁茂や魚類等の餌料物の付着が継続して確認され、水質浄化や小型魚等の保護育成場としての機能は維持されている。</p>	<p>(1)計画時と現在の社会情勢等の変化 地区の状況 平成6年(計画時)に比べ、平成20年の地区人口は1,098人(約29%減)、正組合員数は348人(約26%減)などとなっている。 地区真珠養殖の状況 平成6年に比べ、平成20年は83経営体(約30%減)、生産量は441kg(約37%減)、平均単価は189円/kg(約88%減)となっている。 (2)事業実施による変化 漁場造成期間中、一時的には真珠養殖経営体数は増加したものの、真珠業界全体の長期低迷が影響し、事業完了後、経営体数は減少した。このため、漁場利用は病症害等の発生に対応するための予備的な利用にとどまっている。 一方、ブロックを使用した消波堤の設置により、イセエビ等の漁獲機会が増大とともに、新たな藻場が形成された。また、新たに静穏域では、操業等の安全性の向上が図られたほか、遊漁利用は、地区経済活動の一助となっている。</p>	<p>(1)アンケート調査結果 地区漁業者47名(配布164名)から回答があり、新しい漁場等の利用では、「魚礁としての効果的に操業ができた。(26名)」 地区の漁業の変化では、「根付き資源(イセエビ等)が増えた。(41名)」 今後の有効活用方法では、「刺し網、釣り漁場として期待(33名)」。 また、真珠関係者からは、 新しい漁場等の利用では、「病症害の発生が少ない(3名)」、「赤潮の発生が少ない(3名)」等 地区漁業の変化では、「波が穏やかになり、安全性が向上した(8名)」等 有効活用方法では、「真珠・真珠母貝養殖場として期待(3名)」等。 (2)調査結果を踏まえた評価 消波堤の設置によるイセエビ等の漁獲量が増加により、刺し網・釣り漁場として、また、水産動物の保護育成場の機能を有する藻場として期待されている。また、今後、養殖漁場としての利用も期待されているなど、事業効果は発揮されているものと判断します。</p>	<p>(1)事業実施の課題等 本事業は、経営安定化のため、事業費の1/6の地元負担金を担っても整備したいとの意見を受け、県が事業実施した。このため、利用者が限定され、その動向が漁場利用に直接反映される事業である。 社会経済情勢等の変化はあったが、施設完成時の漁業経営体の減少も少なく、適正に事業が実施がされたと判断されるが、単価低迷により、現在は予備的な漁場利用となっている。 (2)課題への対応方針 造成漁場は、刺し網等の漁場、藻場等として利用されている。一方、母貝養殖が速やかにできないよう、基本施設は設置されており、この利用を期待する漁業者も少ない。 (3)改善措置の必要性や更なる効果増進のための提案等 現在の利用を中心に、漁業生産動向等を見ながら、有効利用を進めていきます。具体的には、地区関係者とともに本来の漁場利用の検討を促進するほか、水質浄化や小型魚等の保護育成場としての機能を有効活用するため、関係団体とともに、漁場環境保全に努めていく。</p>

平成24年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						前回	前回					
						最終	最終					
農業農村整備事業(広域農道整備事業)	504	北勢南部地区	四日市市・鈴鹿市・亀山市	<p>【全体計画概要】 道路工 L=12,638m (道路幅員 8.5m) (舗装幅員 6.5m) 橋梁工 6橋 (L=394m)</p>	S55	H18	7,462	<p>本地域は、花木類、お茶、採卵鶏など全国有数の生産地です。市町村別のお茶の生産量(全国順位)で、四日市市が9位、鈴鹿市が10位、亀山市が25位の生産量を誇っています。採卵鶏では、鈴鹿市が全国順位で8位です。</p> <p>また、さつき・つつじ等の花木の生産も、全国トップクラスです。これらの農畜産物を効率的に市場へ輸送し、流通・輸送面での生産コストを低減を図るなど、地域農業の安定と活性化を図るため、フラワーロードを整備しました。フラワーロードを整備したことにより、農業近代化施設(ライスセンター、カントリーエレベーター等)への搬入も容易となり、消費地や卸売市場への流通の面でも効率化が図られます。</p>	<p>日本道路公団に委託し整備を行った、東名阪自動車道との立体交差部の工事に施行に先立ち、日本道路公団と共同でオオタカの営業調査を実施するなど、自然環境への配慮を行いました。</p>	<p>昭和55年度の事業採択時には、名阪亀山・関工業団地(昭和61年)ならびに亀山・関テクノヒルズ(平成14年)の造成計画がなかったため、これらの工業団地は計画に反映されていません。周辺環境の変化として、亀山地域に県のクリスタルバレー構想の核となるシャープ亀山工場が平成16年1月に稼働を始め、関連企業の輸送量が増大しています。</p>	<p>平成24年7～8月に、関係する四日市市、鈴鹿市、亀山市のフラワーロード沿線の自治会の協力を得て、アンケート調査を実施しました。アンケート結果から、フラワーロードの使用頻度は、毎日～週に一度を合わせると65%となっています。</p>	<p>アンケートでの記載要望をふまえて、今後の農道事業に生かすと共に、要望の多かった道路除草については、管理移管している各市に、今後の管理の参考になるよう情報提供したい。</p>
				H18		7,448						